

### ■米国：カリフォルニア州の電源・電力系統は気候変動に対して脆弱

2012年7月31日、カリフォルニア州天然資源局とカリフォルニア州エネルギー委員会は共同で、沿岸の空港や都市下水システムをあふれさせる可能性のある海面上昇、および水力発電量を減らすことになる融雪の早期化など、住民に気候変動の影響を伝えることを目的とした研究結果を発表した。カリフォルニア州の平均気温は1895年から2011年の間に0.9度上昇し、2050年までに2000年の平均値より1.5度上昇すると予想されている。研究の対象とされているのは、公衆衛生、水システム、エネルギー、沿岸地域への影響、生物体系への影響、農業への影響であり、電力については、高温化長期化する夏に対応する為の冷房の増によるデマンドの増加、融雪の早期化による高地水力発電所の発電電力量の減、山火事の増による送電線地帯の被災の増などが挙げられている。